

シリーズ  
学校最前線

国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業  
「総合的な学習の時間」の研究 成果

大阪府立東百舌鳥高等学校校長 石田利生



はじめに

大阪府立東百舌鳥高等学校は、国立教育政策研究所(以下、国研)「総合的な学習の時間」教育課程研究指定校事業で「学びに向かう探究学習の研究・開発及び評価」を研究主題に、二年間の研究を行い、その取組の成果をここにまとめました。

研究主題の設定について

本校では、ICTをツールとした「授業改善」に取組み、「授業のめあて、生徒の活動場面、ふりかえり」を取入れた授業「東百舌鳥Style」を推進するとともに、「建設的相互作用を通して、生徒一人ひとりが自分の考えを深める」協調学習の取組みも進めてきました。

二〇三〇年の子どもたちを取り巻く社会について、OECDは、コンピテンシーを再定義し、その育成につながるカリキュラムや教授法、学習評価などについて検討を進めています。高校での学びを今一度、捉えなおそうと言った問題意識から、私たちは「学びに向かう探究学習」の推進を考えました。

一年目の主な取組みについて

十一月の探究学習「オリンピックの時、海外からのお客様が困りそうなことを解決しよう」では、設定したテーマに関連する様々な問題のなかから、グループで解決するものを選びました。「問題提起・問題展開・解決提案・まとめ」の四観点を軸とした探究を進め、「自分

二年目の主な取組みについて

一年目の成果と課題をふまえ、次の三つを研究内容としました。  
①「探究学習」では、探究の対象が、地域(堺)↓日本(北海道)↓世界(SDGs)のよう



校内ポスター発表 (R2.2.3)

プロトチを考察しました。

(2)北海道探究学習「北海道の農村からSDGsに迫る」北海道の農村への提案!」では、修学旅行で訪れる北海道の抱える問題点から、グループで、興味・関心のある課題を見付け、その解決策をより深く探究し、北海道の農村への提案としてまとめました。修学旅行第一日目と二日目のファームステイ(民泊)では、自分たちが立てた「仮説」の根拠となるエビデンスを得るために、取材活動をさせていただき、そこから提案内容のブラッシュアップを図りました。



校内ポスター発表 (R2.2.3)

② 関連単元配列表の活用とカリキュラムマネジメントの充実については、育成をめざす資質・能力で整理した「関連単元配列表」を作成しました。その作業を通じて総合的な探究の時間と各教科・科目等で育成される資質・能力の関連性を、教育課程のなかで俯瞰的に捉え、新教育課程に基づいた、組織的かつ計画的な教育活動の質の向上につながりました。

(3)SDGs探究学習「ピア・マインドセットをもち、SDGsに取り組む探究学習!」では、専門コースに関連させた「関心領域」からSDGsを自らの課題として捉え、自己の在り方生き方を考えながら他者と協働し、その解決に向けた自分たちなりのアプローチを考察しました。その際、専門コースで学ぶ教科・科目の専門性を活かし、探究の質を高めることに留意しました。

関連単元配列表作成の過程で、教員にデイプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッ

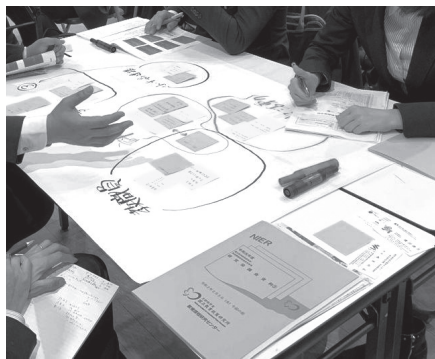
ションポリシーの三つのポリシーが意識されるようになり、カリキュラムマップの作成、学習効果の最大化を図る新教育課程編成へと取組が進みました。  
③ 形成的評価法の研究・開発では、「東百舌鳥style」マインドセットアンケート)により「生徒の変容」の分析を行いました。一年目に引き続き、協働して「探究学習」に取り組むことで「自己有用感」と「主体性」が高まっていることが分かりました。

国研・研究協議会を受けて

令和二月五日の文部科学省での国研・研究協議会では、後期中等教育学校の関係者約百名が参加され、研究発表の後、四名一組でグループを作り、実践報告の内容を中心に各校の実情も踏まえて、KJ法を用いて「総合的な学習の時間」の取組みの成果と課題について協議しました。ワールドカフェ方式で、グループで協議した内容を模造紙で示しながら全体で共有しました。研究協議では、探究学習に



国研・研究協議会 (R2.2.5)



国研・研究協議会 (R2.2.5)